

令和6年度

公立大学法人福井県立大学業務実績評価書

令和7年8月

公立大学法人福井県立大学評価委員会

目 次

本評価の位置づけ	．．．．．	1
I 評価結果	．．．．．	1
1 全体評価	．．．．．	1
2 分野別評価	．．．．．	2
II 項目別評価	．．．．．	6
新学部・新学科の創設	．．．．．	6
教育	．．．．．	6
研究・地域貢献	．．．．．	8
国際化	．．．．．	9
情報発信・業務運営	．．．．．	10

《本評価の位置づけ》

本評価は、公立大学法人福井県立大学評価委員会が、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定に基づき、令和6年度に法人が中期計画に基づき行った業務実績を評価するものである。

評価に当たっては、中期計画で取り組んだ9項目を分野別に、法人からの聴き取り等を参考に、法人が行った自己点検・評価を基にその妥当性の検証と評価を行った。

I 評価結果

1 全体評価

令和6年度の業務実績に対する評価結果は次のとおりである。

目標達成に向けて計画の実施に努めており、**概ね計画どおり達成した**と判断される。取り組んだ9項目の評価については、次のとおりである。

「計画を上回って実施している」	3 計画
「計画を順調に実施している」	5 計画
「計画を十分に達していない」	1 計画

特に評価できる点は、次のとおりである。

- ・早い段階から学生との接点を持ち、教職協働で学生の就職活動を支援することにより、昨年に引き続き、過去最高の就職率 99.7%を達成した点が特に評価できる。

2 分野別評価

1 のとおり、令和 6 年度計画を概ね計画どおり進めたと認められるが、6 年度の進行状況を踏まえた評価委員会の提言は、次のとおりである。

新学部・新学科の創設

- ・ 恐竜学部と地域政策学部の開設は、県立大学にとって大きな目玉である。恐竜学部は今年度、開設初年度を迎え、大変な人気を博したと伺っている。地域政策学部についても、6 月末に学部設置届出が受理され、現在、着実に準備が進められている。両学部の今後の活躍を大いに期待している。
- ・ 地域政策学部は福井駅周辺のアカデミックな拠点として充実させていただきたい。同学部を推進力とし、県立大学全体の存在感が更に高まることを期待する。

教育

- ・ 県内入学率が 50% 超を確保していることは評価できる。
- ・ 障害のある学生、LGBTQ の学生を含む、多様な学生が安心して学べる大学環境の実現に向けて、「みんなのトイレ」の整備など、着実な取組みを期待する。
- ・ ダイバーシティの観点から、様々な障がいを持つ教職員の大学運営への参画を進めていただきたい。

研究・地域貢献

- ・ 外部研究資金の申請率が着実に向上しており非常に評価できる。
- ・ 理学系の色々な研究を相乗的に発展させるために、経営的な観点から経済学部と連携を進めることが重要。
- ・ 地域貢献の面では、領域、学部を横断した活動を様々に展開しており大変すばらしい。

国際化・情報発信・業務運営

- ・ コロナの影響が大きいですが、第3期中期計画期間中に学生の海外留学割合にかかる数値目標を達成できなかったため、第4期中期計画においては、国際化を促進させるための早期の取組みに期待したい。
- ・ 学生への波及効果が非常に大きいと考えられるため、教員に海外留学等の機会を設けていただきたい。
- ・ 情報発信は、数だけでなく、その内容が外部からどう評価されているかの効果検証が必要。
- ・ 恐竜学部は報道等でよく取り上げられており、話題性に富んだ学部だと思うので、どんどん発信していただきたい。
- ・ 17時以降の会議自粛や短時間での会議開催など、大学全体として業務の効率化に向けた取組みを進めることが求められる。

■中期計画分野別評価結果

中期計画分野	項目数	評 価 結 果			
		S 計画を上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分に 実施していない	C 計画を 実施していない
新学部・新学科の創設	1		1		
教 育	3	2	1		
研 究	1		1		
地 域 貢 献	1		1		
国 際 化	1			1	
情 報 発 信	1	1			
業 務 運 営	1		1		
計	9	3	5	1	

■中期計画分野別評価結果

評価項目(中期計画)		法人 評価	委員会 評価
Ⅰ 新学部・新学科の創設		S	A
Ⅱ 教育	1)教育内容、実施体制の強化	S	S
	2)多様な学生の受入れ	A	A
	3)学生への支援	S	S
Ⅲ 研究		A	A
Ⅳ 地域貢献		A	A
Ⅴ 国際化		A	B
Ⅵ 情報発信		S	S
Ⅶ 業務運営		A	A

分 野		法人の自己 点検・評価	概 要	評価委員会 の評価	特記事項
I 新学部・新学科の創設		S	<総括> 恐竜学部の開設に向けた学生募集や入学者選抜、勝山キャンパス学部棟の建設工事、地域政策学部の開設に向けた文部科学省への事前申請、福井まちなかキャンパスの開設決定など、新学部に係る準備を着実に進めた。 <主な取組み> 【恐竜学部】 ・令和7年4月開設に向け、文部科学省から学部開設の認可を受け、学生募集、入学者選抜を行うとともに、勝山キャンパス学部棟の建設工事を実施した。 ・県立恐竜博物館内に恐竜オープンラボをプレオープンし、恐竜学部のPR展示やキックオフイベントを開催。世界的に著名な恐竜研究者5名を客員教授に委嘱した。 【地域政策学部】 ・令和8年4月開設に向け、カリキュラム編成や教員確保を進め、文部科学省への事前申請を実施した。 ・福井まちなかキャンパスを福井駅東口の複合ビル「アオッサ」内に開設することを決定し、学部やキャンパスの広報周知を展開した。 ・就労体験型学習・国内留学制度など、学部の特色の具現化に向け準備に着手した。	A	恐竜学部と地域政策学部の開設は、県立大学にとって大きな目玉である。恐竜学部は今年度、開設初年度を迎え、大変な人気を博したと伺っている。地域政策学部についても、6月末に学部設置届出が受理され、現在、着実に準備が進められている。両学部の今後の活躍を大いに期待している。
II 教育	1 教育の内容、教育実施体制の強化	S	<総括> 文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の認定を受けたほか、4年間で専門分野をより深く学べるカリキュラムを整備するなど実践的な教育の充実を図った。 <主な取組み> ・文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」を大学等単位で認定を受けた。 （公立大学では11校のみ、県内大学初） ・本学大学院に進学を志望する学部生が大学院の授業科目を履修できる「早期履修制度」を導入した。（履修11名）	S	

分 野		法人の自己点検・評価	概 要	評価委員会の評価	特記事項
			・学部ごとに専門教育、一般教育の卒業要件単位を見直し、4年間で専門分野をより深く学ぶことができるカリキュラムを整備した。（令和7年度から開始） ・農業の6次産業化を推進する人材の育成を強化するため、あわらキャンパスに食農交流棟を建設した。 ・地元経営者等による特任講師制度について、海洋生物資源学科にも導入し、県内企業等の魅力に触れる機会を拡大した。（前年度比43名増の176名）		
Ⅱ 教育	2 多様な学生の受入れ	A	<総括> 生物資源学科の総合型選抜における地域枠の新設、大都市圏の中核人材が大学で学びながら県内企業の経営課題に取り組む「ふくい企業価値共創ラボ」の実施など、多様な学生の受入れを進めた。 <主な取組み> ・生物資源学科の総合型選抜について、出願資格を県内から全国へ拡大するとともに、県内出身者の確保を目的とした地域枠を新たに設置した。 ・県や金融機関と連携し、大都市圏の中核人材が大学で学びながら県内企業の経営課題に取り組む「ふくい企業価値共創ラボ」において、4名の研究員を受け入れた。（全員が県内で活動継続中）	A	県内入学率が50%超を確保していることは評価できる。
	3 学生への支援	S	<総括> 教職協働で学生の就職活動を支援することにより、過去最高の就職率99.7%を達成するとともに、県内就職割合は50%超を確保した。 <主な取組み> ・早い段階から学生との接点を持ち、教職協働で学生の就職活動を支援することにより、過去最高の就職率99.7%を維持、県内就職割合は50%超を確保した。 ・学生のチャレンジを支援するスペースを設置した。 ・学術研究活動や課外活動等で活躍した学生延べ38名に「つぐみ賞」を授与した。	S	

分野	法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
Ⅲ 研究	A	<総括> 地域課題の解決につながる研究プロジェクトを全学的に推進するとともに、科研費申請者の支援拡充など全学的な研究支援を行い、外部研究資金の申請率は115.6%と過去最高となった。 <主な取り組み> ・輸入依存度の高い農水産物の県産化やカーボンニュートラルの実現といった地域課題の解決につながる研究プロジェクトを全学的に推進した。 ・北陸スタートアップ・エコシステムへの参画をはじめ、産学官連携研究やスタートアップ支援を強化した。 ・科研費申請者を対象としたステップアップ補助金や専門人材による支援を通じて外部資金の獲得を促進し、申請率は過去最高の115.6%を達成した。(前年度比18.5ポイント増)	A	外部研究資金の申請率が着実に向上しており非常に評価できる。
Ⅳ 地域貢献	A	<総括> 産学官連携の専任教員およびURAを新たに配置するとともに、自治体や各種団体と連携し、地域の発展に寄与する研究やセミナー等を実施した。 <主な取り組み> ・産学官連携の専任教員およびURAを新たに配置した。 ・自治体や各種団体と協定を締結し連携を進めるとともに、地域の発展に寄与する研究やセミナー等を実施した。 ・生物資源学部が福井市自然史博物館と環境保全に関わる教育研究のためのパートナーシップ協定を締結した。(R6年7月) ・地域経済研究所と韓国の大邱政策研究院が、地域課題に応える研究やプロフェッショナル人材の育成等を推進するため、包括連携協定を締結した。(R6年10月) ・本学と福井大学、産業技術総合研究所、福井県との脱炭素技術開発の連携に関する協定を締結(R7年3月) ・農業試験場、若狭湾エネルギー研究センターと共同で、高温耐性米の開発を開始した。	A	地域貢献の面では、領域、学部を横断した活動を様々に展開しており大変素晴らしい。

分野	法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
		・地域経済研究フォーラム（6回）、グローバル地域研究セミナー（2回）を開催した。 ・仮想空間に恐竜の全身骨格などを並べてオリジナル展示づくりが体験できる「VR恐竜展システム」を制作し、県立恐竜博物館に設置した。（R6年7月） ・多様な内容の公開講座をオンラインを中心に88講座開催し、本学の研究成果を広く発信するとともに県民の学びを応援した。		
V 国際化	A	<総括> 海外派遣支援の担当教員やコーディネーターを新たに配置し体制を強化するとともに、海外研修を質の高いプログラムに見直したほか、海外の日本留学フェアに初参加し、本学を積極的にPRするなどにより、留学生数は、第3期中期計画期間中最多の45名となった。また、包括連携協定を締結し、国際学長会議での情報発信を行った。 <主な取組み> ・海外派遣支援の担当教員およびコーディネーターを新たに配置し体制を強化した。 ・本学とブラジル福井県文化協会（福井県人会）、コロニア・ピニャール文化体育協会（福井村）との包括連携協定を締結したほか、日本・ブラジル外交関係樹立130周年記念日伯学長会議に日本の公立大学として唯一参加した。 ・海外の日本留学フェアに初参加し、本学を積極的にPRするなどにより、留学生数は第3期中期計画期間中最多の45名となった。 ・先端増養殖科学科の学生13名がフィリピンで水産増養殖に係る実習と講義を受講したほか、学生19名がシンガポールで異文化コミュニケーション研修に参加するなど、学生の英語力向上や多文化理解を促進した。	B	コロナの影響が大きい、第3期中期計画期間中に学生の海外留学割合にかかる数値目標を達成できなかったため、第4期中期計画においては、国際化を促進させるための早期の取組みに期待したい。

分野	法人の自己点検・評価	概要	評価委員会の評価	特記事項
VI 情報発信	S	<総括> 教職員や学生が一体となって研究成果や本学の取組みを積極的に情報発信し、メディア掲載・放送件数は、3年連続で目標値を大幅に超える500件超を達成するなど、本学の魅力を広く発信した。 <主な取組み> ・教職員や学生が一体となって研究成果や本学の取組みを積極的に情報発信し、メディア掲載・放送件数は3年連続で目標値を大幅に超える500件超を達成した。 ・ジャパン・インターナショナル・シーフードショーや北陸技術交流テクノフェアに出展し、本学の研究シーズを関係業界にPRした。	S	
VII 業務運営	A	<総括> 業務効率化やセキュリティ強化を図るための基幹システムの再構築に向けて学務・財務システムの基本設計、入札等を実施したほか、環境に配慮したキャンパスづくりを推進した。 <主な取組み> ・業務効率化やセキュリティ強化を図るための基幹システムの再構築に向けて学務・財務システムの基本設計、入札等を実施 ・照明のLED化やウォーターサーバーの設置など、環境に配慮したキャンパスづくりを推進した。 ・外部資金の獲得強化などにより自己収入の確保を図った。	A	17時以降の会議自粛や短時間での会議開催など、大学全体として業務の効率化に向けた取組みを進めることが求められる。

公立大学法人福井県立大学評価委員会 委員名簿

氏 名	職	備 考
しらす としろう 白須 敏朗	一般社団法人大日本水産会相談役	委員長
てしま まさこ 豊嶋 雅子	フクビ化学工業(株) 元取締役	
なかの ひろみ 中野 裕美	豊橋技術科学大学名誉教授	
ふるたに きよかず 古谷 清和	敦賀気比高等学校長	
やまもと のりこ 山本 則子	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護分野 教授	

(50 音順)